



人力車を「松江の新名物にしたい」と語る吉川司さん（左）と佳奈美さん

サン・ビレッジ浜田

で施設活用を

選手、市長に提案



カーリングの魅力を語る近江谷杏菜選手（左）と山口剛史選手—浜田市殿町、市役所

史選手(38)はSSC軽井沢クラブと、バンクーバー五輪出場の近江谷杏菜選手(33)はフォルティウス。日本カーリング協会のアシリート委員派遣事業で、サン・ビレッジ浜田で11、12の両日開催される「第4回西日本ミックスカーリング大会」の視察に合わせて表敬訪問した。

前日に浜田市入りし、リンクを下見した山口選手は「大きな大会もできる施設だ」と評価。「競技人気は高まっており、選手を呼び体験会を開けば大勢参加してもらえる」と期待した。近江谷選手は北海道など北日本で盛んな理由について「寒いからではなく、施設があるから」と強調。リンクがある浜田なら普及できるとの考えを示した。チ

丸鳥取

題字
杉谷 泉里
(湯梨浜中2年)

「笑顔届けて

主に司さんが引き役、佳奈美さんが伴走役として呼吸を合わせている。30分間1人5千円、2人7千円の料金設定で、26日からは松江城周辺や玉造温泉街のほか、結婚式を含むイベント会場など、市内ならどこでも軽トラパックに積んで出向く。「自分たちが頑張ることで、誰かを笑顔にできたら、それが喜び。新しい出会いが楽しみ」と目を輝かせる司さん。2人は人力車を「まつ笑」と名付け、これまで支援してくれた人たちへの感謝も乗せて走る日を待っている。

問い合わせは司さん、電話070(8469)1836。

1ム拠点の札幌市ではリンクの予約が取れないほど人気だといひ、高齢者の楽しみや観光客の体験の場としての活用も紹介した。久保田市長は「カーリングを盛り上げてほしい」と応援する一方、「どのスポーツも人口減少で競技者を確保できない悩みがある。支えてくれる企業も必要になる」と話した。サン・ビレッジ浜田のアイススケート場は、利用者減や老朽化で市が廃止方針を打ち出したが、その後判断を保留にしている。

(吉田雅史)

パリ・パラ目指し ボート強化合宿

米子

2024年のパリ・パラリンピック出場を目指すパラローイング(障害者のボート競技)の強化合宿が10日、3日間の日程で米子市の錦海ポートコースで始まった。米子東高出身でコックス(舵手)として日本代表入りした来海泰志選手(埼玉県・戸田中央総合病院)らがパラ出場を懸けた9月の世界選手権(セルビア)を照準に、初日から力強くオールをこいだ。

参加メンバーに名を連ね



パラローイングの強化合宿で力強くオールをこぐ選手たち。米子市、海ポートコース

るのはこのほか、強化指定選手の森卓也選手(米子市・養和会)ら選手6人と、スタッフ6人。初日は1人乗りと5人乗りのボートで水の感触を確かめながら、ぐいぐいとこぎ進めた。25歳の来海選手は、8歳から18歳まで練習した慣れ親しんだコースで「日本代表として戻ってこれた成長したい」と意気込んだ。鳥取県ボート協会の協力で合宿を実施する日本ローイング協会の佐原英行強化統括責任者は「水面にアクセスしやすく波も穏やかで、しっかりとこぎ込める」と環境の良さを評価した。

(井上誉文)



アタック壮年 チーム功労者から選手へ

第37回 東部リーグ

2022年12月に開幕した第37回中央新報バレーボール東部リーグ戦(鳥取壮年バレーボール連盟主催、山陰中央新報社後援、ミカサ協賛)が後半戦に突入し、熱戦を繰り広げている。4月の閉幕に向けてしのぎを削る出場6チームの功労者から、それぞれのチームの選手に向けて熱い思いを語ってもらった。

①

大正クラブ

若手レベに激し、力強い

江津・コロナ
新型コロナウイルスの影響で2021年の開校以来、留学生が入国できずオンライン授業などで対応してきた「はなまる日本語学校島根校」(江津市江津町)で10日、初めての卒業式があった。コロナ禍に翻弄さ

